



【特集】

技 手すりを工夫した、思いやりのリフォーム ～体の不自由な方にも介護する家族にもやさしい住まい～

●外観に配慮して施工

”清水の里”として知られる黒部市生地に建つK邸。敷地内に設けられた二カ所の井戸からは黒部川の伏流水が豊富に湧き出ており、涼感に溢れている。夏の暑さを忘れさせてくれるひととき。途切れることのない清水の流れを見ていると、自然の営みに感動すら憶える。

K邸は、四年ほど前に新築された住まいで、正面中央に玄関を配置した設計。屋根や窓の位置など、バランスのよい佇まいが目を引く。リフォームしたのは玄関前のポーチで、二段の階段に金属製の手すりを取り付けた。

四年ほど前に脳出血で半身に障害をもったご主人が、最近自宅で転倒し、運悪く背骨を骨折したため、下肢の不自由さに拍車がかかってしまった。ご夫婦

が第二玄関として使っている勝手口には、新築時に手すりを付けていたが、デイサービスのは正面玄関の横に駐車するため、玄関のポーチから外に出やすいように手すりを設けたというわけだ。

「新築時には、外観に配慮して玄関のポーチに手すりを付けませんでした。今回も見映えが気になりましたが、工事担当者から、近年、人に優しい家づくりから、手すりを設ける家が増えていると聞き、お願いしました。外観・美観を損なわず、正面から見ても、玄関ポーチがすっきり見えるように工夫してくださいました。このあたりは冬場に冷たい風が吹き込み、ポーチのタイルの表面が凍って滑りやすくなりますが、手すりにつかまって歩けば安心です」と奥様も満足そう。施工では、タイルと壁を現状のままに



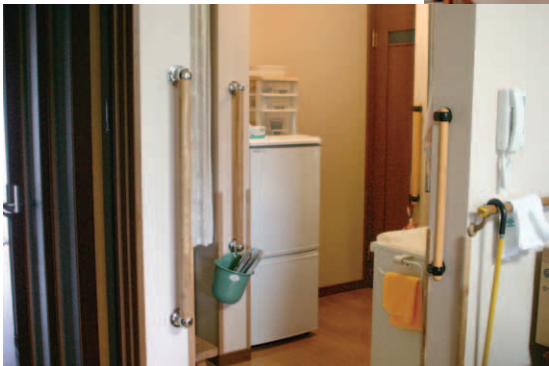
▲玄関ホールには傾斜のついた手すりを。



▲玄関のポーチに取り付けた手すり。



▲手すり板は横幅が限られたスペースに最適。



▲寝室の横に浴室とトイレをレイアウト。一歩ずつ進む間隔で手すりを配置した。



▲トイレ内部の手すり(左)とトイレ前の手すり(右)。縦向きの手すりを取り付けている。

したが、インターロッキングは強度不足のため、その部分だけコンクリートで補強したことがポイントだ。

●手すり板が体を支える

今回は玄関ポーチのほか、寝室の壁やトイレに向かう壁など、室内にも手すりを取り付けたという。新築時に玄関ホールや居間、階段、寝室などに取り付けてい

たが、障害の進行に伴い、追加した形だ。

「ご主人と介護する奥様が移動しやすいように、身長や腕の高さ、手の長さ、介護ベッドの位置などを考えながら設計し、横向き、縦向きの手すりを配置していただきました」と施工担当者。手すりの材質はタモ材。野球のバットなどにも使用される堅い木材で、つかまってもしっかりと手になじむ感覚で安心できる。手すりはバー状のものもあるが、狭い廊下での横幅の確保と圧迫感がないように、壁に腰板のように取り付ける手すり板タイプもある。K邸では、手の指をひっかけやすいように、板の表面に凹を施した手すり板を一部の壁に採用。腰も当てやすく、体を優しくホールドしてくれる。

「白い壁に手すり板があると、クロスが手で汚れていくんですね。いいアイデアです」

柔らかな表情を見せるご主人と優しく介護する奥様。手すりを取り付けたことで、介護負担の軽減にもつながったという。さまざまな工夫が日々の暮らしをサポートしている思いやりのリフォームである。



▲清水の里に佇むK邸。すっきりとしたモダンな外観。

今月のオーナー訪問



富山県黒部市 K様

『ちょっとした工夫で介護がラクに』

新築時にお世話になった建設会社に今回のリフォームをお願いしました。体の不自由な者と介護する者にとっては、数歩移動するだけでも大変な思いをします。リフォームといっても、手すりを追加したのですが、ちょっとした工夫で体の移動がラクになり、大変助かっています。動きやすいように縦向き、横向きを考慮して取り付けてくださいました。施工料も手頃で、満足いくものに仕上がりました。ありがとうございます。



技のリフォーム

イワサ ミセマス
0120-183-304